

令和六年一月

普賢光明

華嚴宗 普賢光明寺

今月の法話

一、「御霊筆より」 二、「インドの仏教」

一、御霊筆より

「――大和之國如龍國也 金剛龍王神変大菩薩也

真龍光大慈大悲是大光明 一切衆生爲救済也 龍光如意量神通力――」

大晦日の雨は一年の厄払いとなり、新たな年を迎えた。しかし気持ちいが何故かすっきりしない。まだ自身の体調も回復してないせいと思いつつも、ご霊筆の内容が気にかかる。修正会を迎え礼拝行をする。新しい行法は新鮮さを感じる。

無事修正会が終わり一息つくゆつくり地が動く、これは地震か？ゆつくりなので遠距離だと思つた。ニュースで能登半島沖地震にかなりの震度で大津波警報も出る。アウンサーはかなりひっぱくした口調で避難をうながす。北陸一帯をはじめ、能登半島は霊視でも地震の可能性を示していた。東日本大震災の記憶が重なる。私は少しでも災害が少なくなることを祈る。

しかし、家屋の倒壊や、津波、火災がかつての震災と重なる。翌日に被害状況が知らされた。かなりのものだ、古い家屋を始め地盤の弱い所は崩れて倒壊し、道路は寸断されていた。残念ながら死者も多数出ている。その中で自衛隊を始め救援活動を迅速に行っている姿は素晴らしい。幸いにも雪が降ってなかったことはよかった。過去の経験が役立っているようだ。余震は続くが一日も早い救助と復興を祈る。

翌日に何気なくテレビをつける羽田空港で火事が起きている。何が起きているのかアウンサーもわからない。少し経つと旅客機が燃えているとのこと。すると他の小型機に接触炎上している映像も出る。幸いにも旅客機の乗客は全員脱出した。しかし海上保安庁の小型機に乗っていた乗員の内五名は亡くなられた。新年早々に多くの災害。しかし、これはまだ序章に過ぎない。これから何が起きるか考えただけでも怖い。しかしご霊筆では、龍神様からのお告げがあり、我が国は龍国であり、諸龍神に守護されている。そして今、この地に他の龍神達が集結し、この地も含め世界を守る体勢に入っておられるようだ。

地球は生きている。ゆえに自然の営みは過酷である。そこで、新たに金剛龍王が現れ、私たちを守護されると言う。そして龍光と言われる神通力にて皆を救済されるとも言われる。私たちは、これから来る災難に向け心を一つに結集して平和と安穩を祈り自身のみならずできる限りの救済と守護を祈り行いなさいという警告なのだ。

今年から来年の本番にかけて天災、人災、に対応する確認をしなければならぬことを思い知らされました。龍神の子孫といわれる私たち大和民族は、これらを絶対に乗越えなければならぬ試練と修行なのだと思います。他人事では決してなく、絵空事でもないので。今、すぐそこに迫って来ています。毎月の勉強会では質問も受けます。又、毎月の個人アドバイスもしっかり聞いて下さいませ。そして御出席下さいませ。私自身はまだ完全に回復していませんが、できる限りのことはしてまいります。皆さまの祈りでこの世界を守り救済しましょう。

二、インドの仏教

昨年十二月四日から十日までの一週間、東大寺長老である北河原公敬長老の主催するインド旅行に参加し、ブツダガヤーで行われた印度山日本寺での開山五十周年を記念した法要に出仕して参りました。華嚴宗のみならず、私がお会いした真言宗、日蓮宗、臨済宗、融通念仏宗、修験本宗、それ以外にも多くの僧侶が参列する大きな法要であり、私は式衆として参列いたしました。

ブツダガヤーはインドの北西部に位置する小さな街で、尼連禪河（ニランジャナ川）のほとりに位置します。そこはお釈迦様が悟りを開かれた聖地であり、現在では多くの国々の仏教寺院が軒を連ねています。

中心には大菩提寺と呼ばれる寺院があり、そこには菩提樹の木と、その下に金剛座が置かれ、多くの僧侶が常に集り一心に五体投地を行い、経典を誦読するまさに聖地と呼ぶにふさわしい場所です。そこには宗派も国も、上座部も大乘仏教も関係なく、お釈迦様から始まる仏法の下に帰依をした人々の真摯な祈りが集まるのです。

インドには仏教の四大聖地があり、「生誕の地」ルンビニー、「成道の地」ブツダガヤー、「初転法輪の地」サールナート（鹿野苑）、「涅槃の地」クシナガラ。今回の旅ではブツダガヤー、サールナートの二箇所を参拝いたしました。

そこで感じたことは、仏教の「弱さ」と「再興の兆し」です。インドにおいて仏教は十二世紀頃にイスラム教の侵攻を機に滅びました。それは奇しくも日本において鎌倉新仏教が生まれ、明恵上人が天竺行きを希求した頃に当たります。

大菩提寺での読経を終えて、日本寺へ練行列をしていると、偶然仏教徒の集団とすれ違いました。その日はインドの初代法務大臣であるビームラート・アンベートカルの命日であったそうで、彼を偲んだ行進を行っていました。アンベートカルは不可触民の出身で、亡くなる直前に仏教に改宗したことで知られます。不可触民とはダリットと呼ばれ、インドにおいてカーストの外に置かれ人扱いされない人々を指します。

インドにおいて仏教の訴求力が失われた大きな要因の一つはこのカーストにあります。インドでは大まかにバラモン、クシャトリア、バイシャ、シュードラといった階級があります。仏教はカーストに関わらず救われる。それは上位カーストにとって面白くないことで、喜捨と布施の心がなければ成り立たないのです。そのため王権の庇護を失えば脆く、徐々にヒンドゥー教の中に埋もれていき、お釈迦様もヒンドゥーの神々の中に取り込まれました。

その最たる象徴が何を隠そうブツダガヤーの大菩提寺であり、サールナートなのです。この寺院は大きな塔のような形をしており、明らかに仏教寺院ではありません。それもそのはずで、これはヒンドゥー教の寺院であったのです。元々はシヴァ神を祀るお寺であったものを改装して、現在には中にお釈迦様の仏像が安置されているのです。これは先述した通り、お釈迦様がヒンドゥー教に取り込まれ、仏教が滅んだためです。

結果としてブツダガヤーに住む人々でさえこの聖地のことを忘れ去ってしまった。それが陽の目を見ることになったのは十九世紀前半のこと。イギリス人考古学者のアレキサンダー・カニングムが玄奘三蔵の『大唐西域記』を参考に再発見されたのです。その後、サールナートなどの遺跡群も仏跡であることを発見し、仏教が再興するきっかけになったのです。

そして今、仏教はインドの地で少しずつ再興の機運を高めています。その要因の一つがダリットの存在です。カーストに属さない彼らの多くは仏教に帰依し、心からの祈りを捧げています。仏教の持つ平等の心が彼らには深く届いたのでしょう。合掌

南無日光妙法蓮華經

*一月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺（一月七日〜二月四日迄）
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増葬や旅行などを控えた方がよい方位となります。年間通してのラッキーカーラーは白、銀、薄紫です。

一月のラッキーカーラー

銀

赤

黄

暗剣殺

北西

五黄殺

東南

年間の暗剣殺は東、五黄殺は西。歳徳神（としとくじん）は東北東（吉方位）となります。

【お知らせ】

①二月の勉強会の日程 普賢光明寺・二月三日（土）四日（日）六日（火）午後一時より。

横須賀支部・二月十八日（日）小田原支部・二月二十五日（日）いずれも午後二時より

②俱利伽羅大龍不動明王初護摩法を一月二十八日（日）に厳修いたします。本年は辰年で俱利伽羅大龍の縁起力が十二年のうちで最も倍増する年となります。神通力によって是非強運を得てください。

なお御祈願なさった護摩木は必ず法要当日までにお持ちになり、加持を受けることにより厄を落とし運氣を向上させていただきます。なお昨年度の御焚きあげの御札は法要当日からお預かりいたします。護摩札をお申込みされ、法要にはご欠席の場合は勉強会等二月中にはお受け取りになり良い御縁起を受けてください。（配送を依頼された方の御札は順にお送りいたします）

③仏像彫刻教室：二月二十五日（日）正午より